

普及活動情勢報告（令和5年8月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

伝統野菜ぼたなすの安定生産を目指して ～栽培講習会の開催～



整枝作業をする生産者

7月18日、室戸市の集落活動センター「ひなたぼっこ」は市内のほ場で生産者6名を対象に「ぼたなす栽培講習会」を開催しました。

農業改良普及課室戸支所は、ぼたなすの安定生産のために、整枝、誘引などの基本管理を中心に指導しました。

参加者からは、「どの枝のどの部分にハサミを入れるのか」、「明日には忘れていくかも」と心配する声があったので、具体を示しながら、実践を交えて覚えてもらいました。

室戸支所は、引き続き個別巡回指導で、生産者の技術習得に努めます。

栽培技術を高めていきましょう ～安芸市若手生産者の勉強会～



説明を聞く若手生産者

7月20日、安芸市のナス生産者ハウスで若手の勉強会が開催され、生産者8人が参加しました。この会は、新規就農者等若手生産者で、栽培管理技術を向上させたいという思いから発足されました。第1回目は、自己紹介や光合成、環境制御についての説明、来作の目標を共有しました。

農業改良普及課は、IoPクラウド「SAWACHI」の紹介、グループでのデータ共有機能について説明しました。

参加者からは、前作の課題や来作の目標、かん水や病害虫管理などの意見交換がされ、来作の意欲向上につながりました。

農業改良普及課は、今後も若手生産者が主体的に活動できるよう支援します。

イチジクの出荷が始まりました！

～なはりの郷 目慣らし会の実施・出荷規格（案）の作成～



基準を確認し合う担当者

7月27日、（一社）なはりの郷のイチジクの出荷開始に伴い、栽培担当と販売担当が連携し、イチジクの目慣らし及び出荷規格の検討を行いました。

目慣らしを行ったのは初めてであり、実物を見ながら双方で判断基準を確認し、情報共有が行われました。栽培担当からは「良い品物をいい価格で売れるようにしたい」などの声がありました。

農業改良普及課は、目慣らしでの協議内容を踏まえ、出荷規格（案）を作成し、配布を行いました。今後は、出荷規格（案）を活用しながら、年度内に出荷規格の完成を目指すとともに、イチジクの品質や売り上げ向上への支援をします。

土壌の研修会 ～安芸・室戸地区農村女性リーダーの研修会～



熱心に聴講する農村女性リーダー達

8月2日に安芸合同庁舎、5日に芸西村生涯学習館で安芸・室戸地区農村女性リーダーの企画による土壌の基礎を学ぶ研修会を開催し、農村女性リーダー等農業者延べ16人が参加しました。農村女性リーダーは、高知大学の田中教授への講師依頼や、新規就農者等に参加を呼びかけました。

農業改良普及課は、日程調整や会場設営等開催を支援しました。

参加者からは、「平畝栽培が増えているが、根張りに悪影響はないのか」、「ハウス内を湛水する除塩方法は有効か」、「土壌の基本が分かって良かった」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も農村女性リーダーの企画活動を支援します。

農福連携が盛り上がっています！！～農福連携高知県サミットinあき～



取組農家による事例紹介

8月3日、安芸市農福連携研究会は、「農福連携サミットinあき」を開催し、前回開催の倍となるおよそ90名が参加しました。農業改良普及課は、同研究会の構成メンバーになっており、日程調整や会場設営等開催を支援しました。

鹿児島県で農福連携に取り組んでいるNPO法人代表の講師や市内の取組農家、当事者が各々に実践していることや日々感じていることを自身の言葉で説明しました。会場の参加者からは「農福連携は当事者の生きる希望になっている」等の声が聞かれ、農福連携に取り組む意義を参加者に伝えることができました。

農業振興センターでは引き続き、農業の労働力確保対策の一つとして農福連携の推進に取り組んでいきます。

高品質の酒米生産を目指して！～東川酒米研究会「吟の夢」栽培現地検討会～



栽培管理について意見交換する生産者

8月10日、JA高知県安芸地区特産部東川酒米研究会は、酒米「吟の夢」の高品質生産に向けて現地検討会を実施し、生産者7名が参加しました。栽培ほ場14カ所の生育状況や病害虫の発生状況を確認し、今後の管理について意見交換しました。今年は定植前からもち病の発生が多く、植え替えたほ場もあり、ほ場によって作期にばらつきが確認されました。

農業改良普及課は、それぞれのほ場で生育調査を行い、穂肥の適期や施用量について助言するとともに問題となる病害虫の防除対策を指導しました。

農業振興センターでは、今後も東川地区での酒米の高品質安定生産に向け支援します。